エンジン

GX240・GX270・GX340・GX390

取扱説明書

お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

はじめに

●この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について

本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

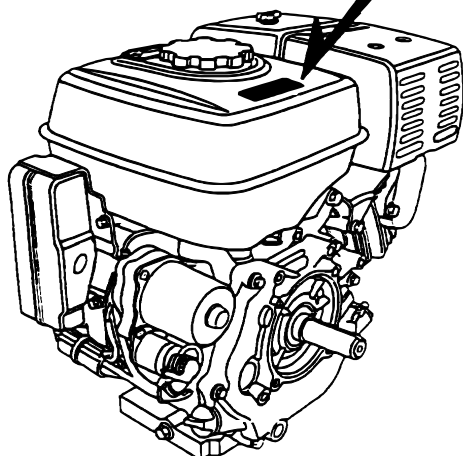
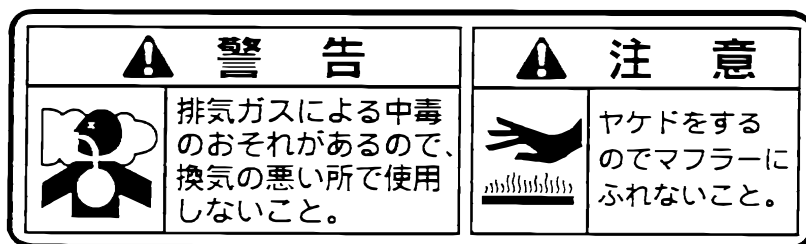
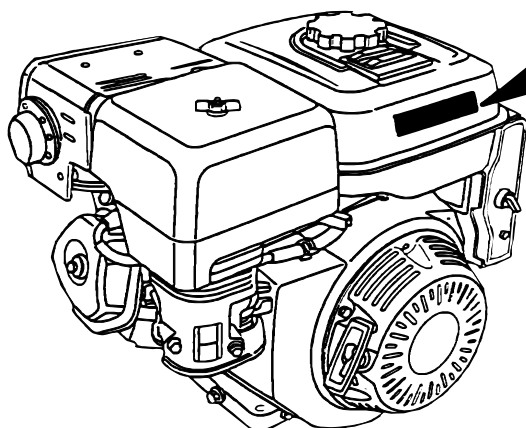
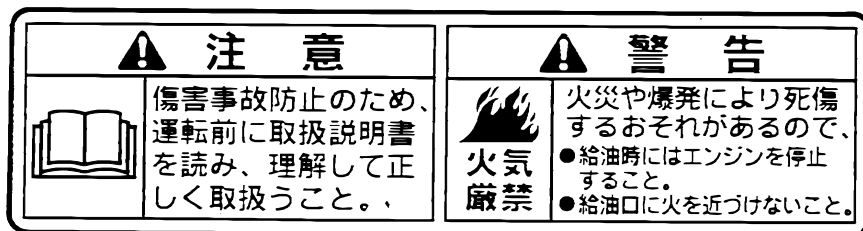
●エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
●エンジンを貸与または譲渡される場合は、必ずこの取扱説明書も一緒にお渡しください。
●紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

●なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

●**安全ラベル**

Hondaエンジンを安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

※安全ラベルと貼付位置はタイプにより一部異なる場合があります。

安全にお使いいただくために　これだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

● この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。また、作業機の取扱説明書も事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解ください。

● 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。

● エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」（５～８頁）を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。

● 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。

● カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

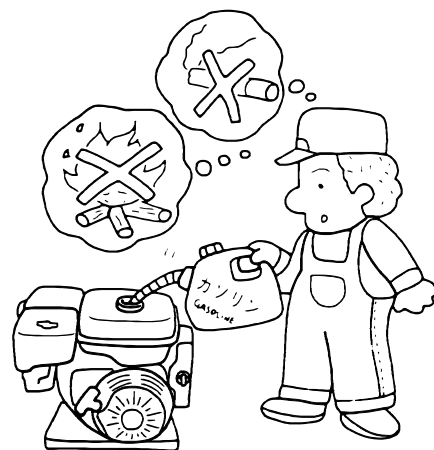
● 過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。

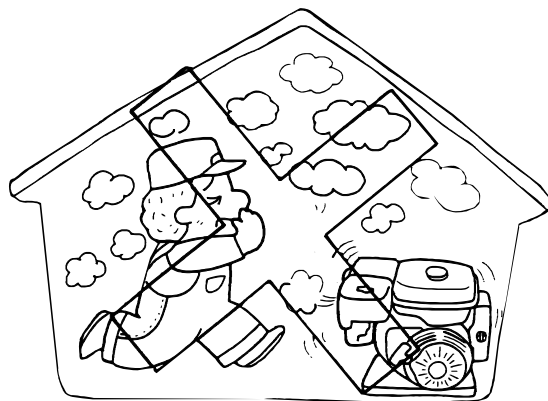
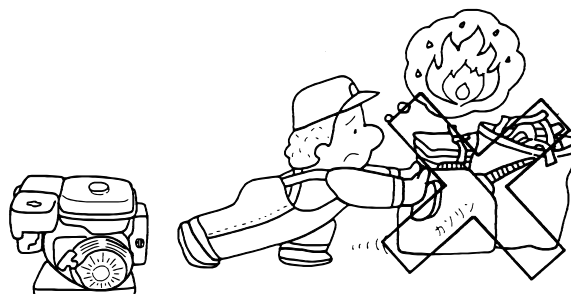
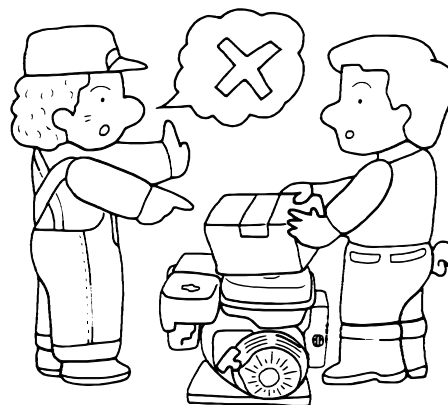
● エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

● エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。

● ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。

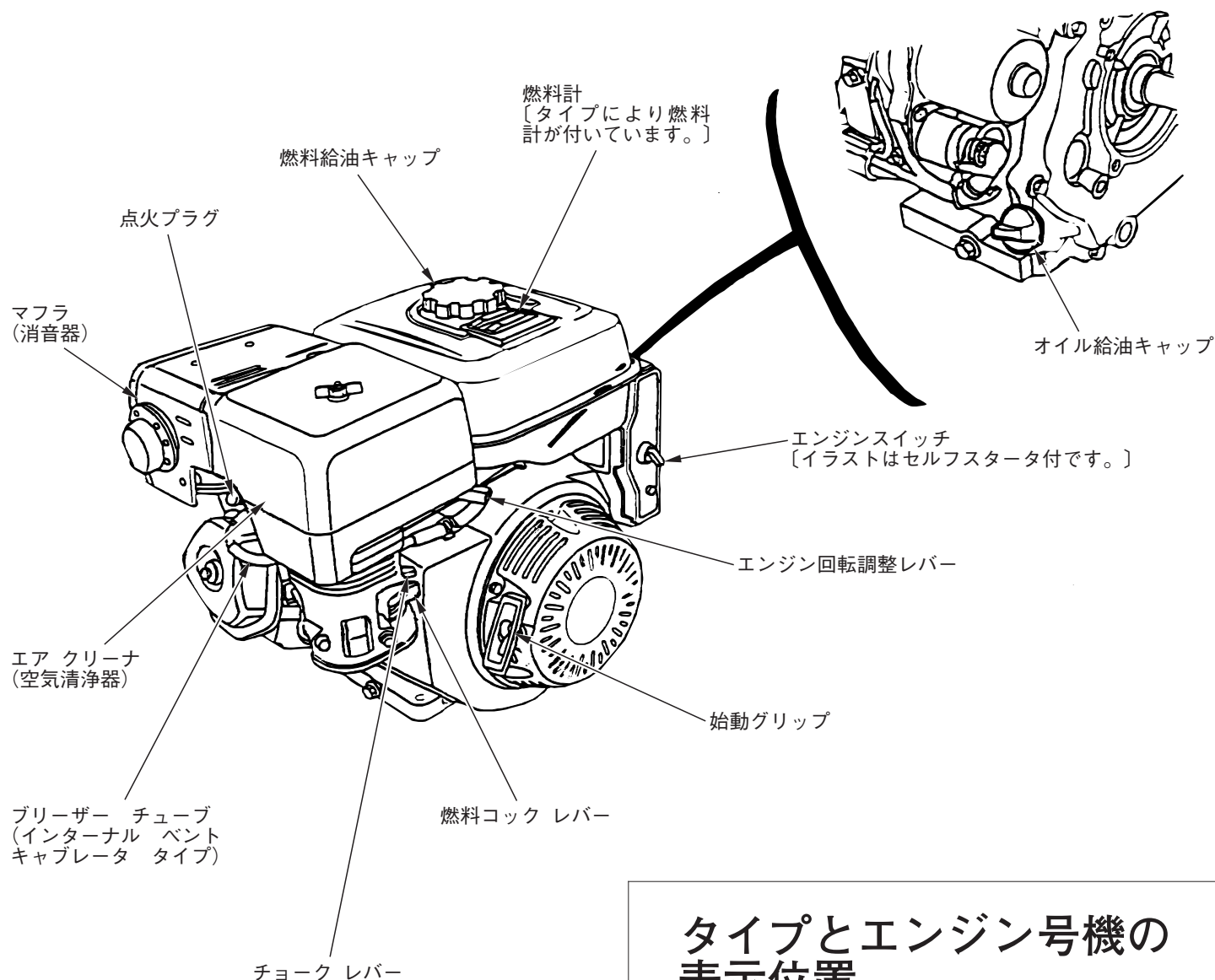
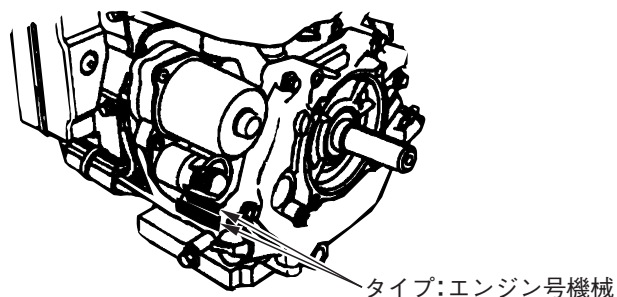
● 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。

● 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルを超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

警告

●室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
●排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
●建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。

●思わぬ転倒事故を防止するためにエンジンは水平で安定した場所に設置してください。また火災を防止するために建物およびその他の設備から１ｍ以上離して設置してください。
●エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。

●運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
●運転中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。
熱によりヤケドをするおそれがあります。
●運転中は高電圧コードやプラグ キャップに触れないでください。感電のおそれがあります。

エンジンを始動する前に点検しましょう

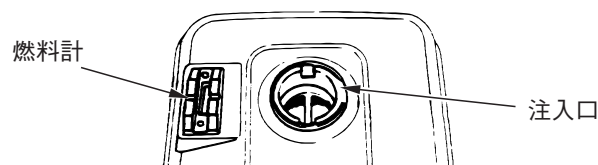
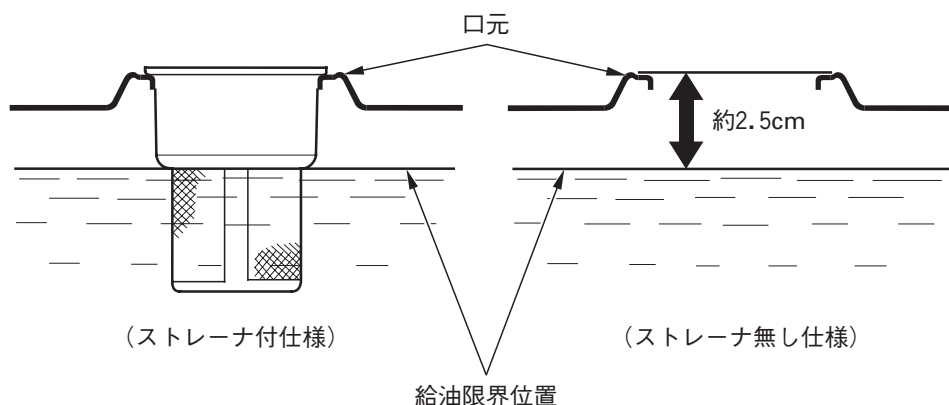
⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外してください。

各部の名称と点検個所

ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・火気を近づけないでください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
　静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
　本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

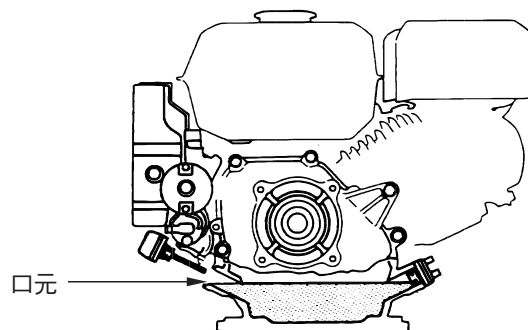
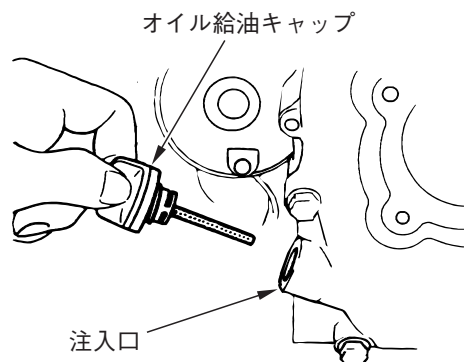
《点検》
・エンジンを水平にし、燃料計でガソリンの量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。〔燃料計付き〕

・エンジンを水平にし、燃料給油キャップを外し、注入口よりガソリンの量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。〔燃料計なし〕

《補給》
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
・補給は燃料キャップを外し、燃料膨張を考慮し口元から約2.5cm以上の余裕を取ってください。
・使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
・補給後、燃料給油キャップは完全に締付けてください。

取扱いのポイント

・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
・ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンを始動する前に点検しましょう

エンジン オイルの点検

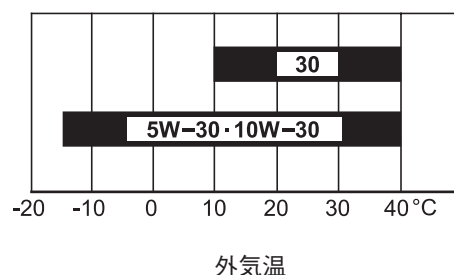
《点検》
エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

《補給》
・不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は12頁参照）

《推奨オイル》 （4 サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《オイル容量》 1.1 ℓ

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

粘度	適用外気温
30	10〜40°C
5W−30・10W−30	-15〜40°C

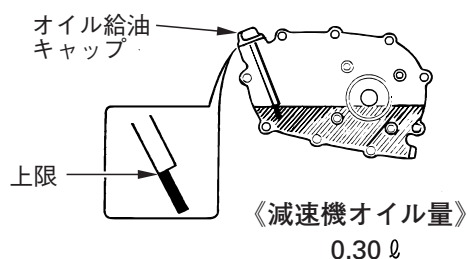
-20 -10 0 10 20 30 40°C
外気温

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

減速機オイルの点検

《点検》
1／2減速機（自動遠心クラッチ付）‥‥オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検します。
すくない場合は補給してください。

《補給》
使用オイル：
Honda純正エンジンオイル
（オイルは上記参照）

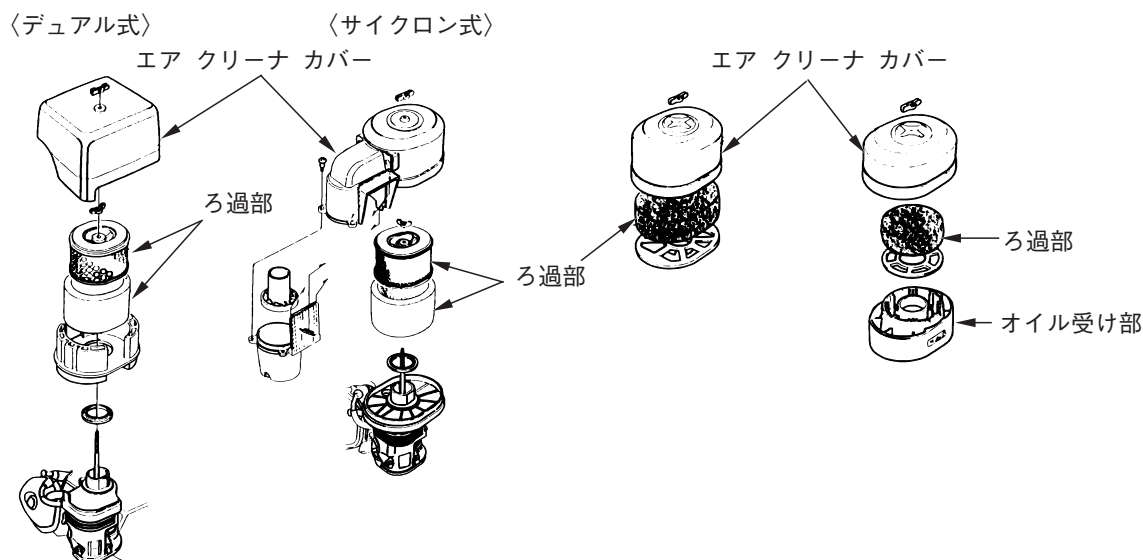
《減速機オイル量》
0.30 ℓ

オイルアラート
（オイルアラート付タイプのみ）

焼付防止エンジン自動停止装置

上記エンジン オイル量の点検を必ず行ってください。
エンジン オイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。エンジン オイルを補給してください。エンジン オイルが不足したままでは始動できません。

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

- 乾式、半乾式・・・・・・エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン、紙製)が汚れていないか、点検します。
- 湿式・・・・・・・・・・・・・・ エア クリーナ カバーを外し、オイル受け部のオイル レベルまでオイルが入っているか、また汚れていないか点検します。

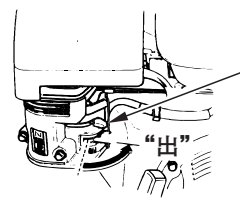
・汚れている場合、オイルレベルの低い場合は清掃、補給してください。(清掃方法は14頁参照)
・汚れているとエンジン性能が低下します。

バッテリの点検(セルフ スタータ付)

⚠警告

- ・バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
- ・バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- ・バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- ・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- ・バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側からはずしてください。工具などが接触するとショートする場合があります。

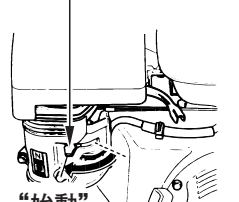
・バッテリは別売部品です。セルフ スタータ付エンジンをお買いあげいただいだ方は、お買いあげ販売店にご相談の上、適正なバッテリをご購入ください。
・バッテリの液面が上限と下限の間にあれば正常です。
バッテリ液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
・バッテリの接続がまちがっていないか、また締付けナットがゆるんでいないか点検してください。

エンジンのかけかた

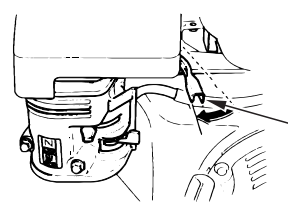
⚠警告

・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

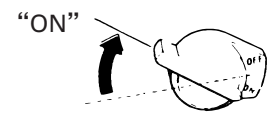
かけかた

1 燃料コック

・燃料コック レバーを**“出”**の位置に合わせます。

2 チョーク

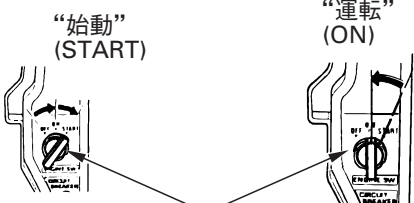
・寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョーク レバーを**“始動”**の位置にあわせます。
・エンジンが暖まっているときは操作不要です。

➡3

3 エンジン回転調整レバー

・エンジン回転調整レバーを矢印の方向に少し動かします。

4 エンジンスイッチ

・エンジン スイッチを**“ON”**(運転)の位置にします。

始動グリップ

・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。

取扱いのポイント

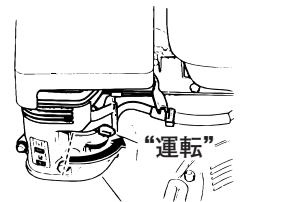
・**始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。**
・**運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。**

4 セルフスタータ付 エンジンスイッチ

・エンジン スイッチを**“START”**(始動)の位置まで回しエンジンを始動します。
・エンジンが始動したら、エンジン スイッチを**“ON”**(運転)の位置に戻します。

取扱いのポイント

・**セルフ スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。**

5

始動

・2～3分間暖機運転を行ってください。

➡6

6 チョーク

・チョーク レバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。

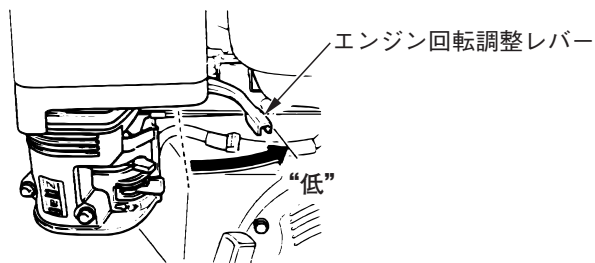
7 エンジン回転調整レバー

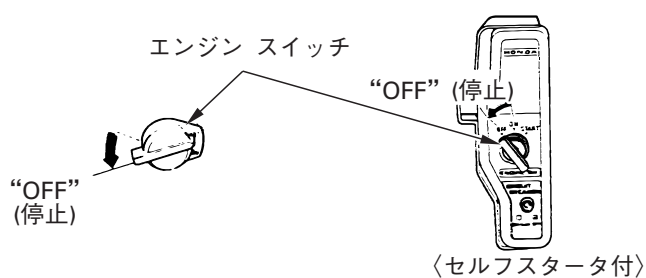
・エンジン回転調整レバーを使用する回転数に調整してください。

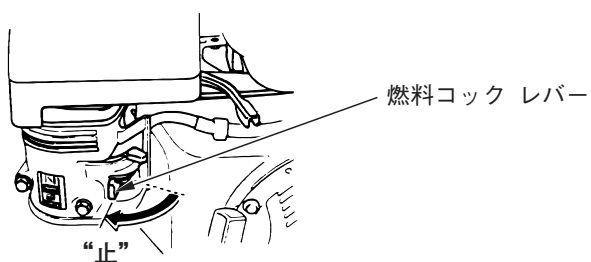
エンジンのとめかた

とめかた

1 エンジン回転調整レバー

・エンジン回転調整レバーを**"低"**の位置(矢印の方向)に戻します。

2 エンジン スイッチ

・エンジン スイッチを**"OFF"**(停止)の位置に回します。

3 燃料コック

・燃料コック　レバーを**"止"**の位置に合わせます。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHondaエンジンをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検時期（３） 点検整備項目		作業前点検	１ヵ月目 または 初回20時間 運転目	３ヵ月毎 または 50時間 運転毎	６ヵ月毎 または 100時間 運転毎	１年毎 または 300時間 運転毎
エンジン　オイル	点検	○				
	交換		○		○	
減速機オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○（１）	○（＊）（１）	
	交換					○（＊＊）
点火プラグ	点検、調整				○	
	交換					○
スパーク　アレスター（装着機のみ）	清掃				○	
燃料ろ過カップ	清掃				○	
アイドル回転	点検、調整					○（２）
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○（２）
燃焼室	清掃	500時間運転毎（２）（４）				
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃				○（２）	
燃料チューブ	点検	２年毎（必要なら交換）（２）				

（＊）　インターナル　ベント　キャブレータのデュアル　エア　クリーナ　タイプのみ清掃してください。
　　　サイクロン　タイプは６か月毎または150時間運転毎に清掃してください。
（＊＊）紙ろ過部のみ交換してください。
　　　サイクロン　タイプは２年毎または600時間毎に交換してください。

（１）ほこりの多い場所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または１日１回行ってください。
（２）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（３）点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。
（４）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

- 点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外してください。
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

・エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換時期》……初回：１か月目または20時間運転目、以後：６か月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》（４サイクル ガソリン エンジン オイル）

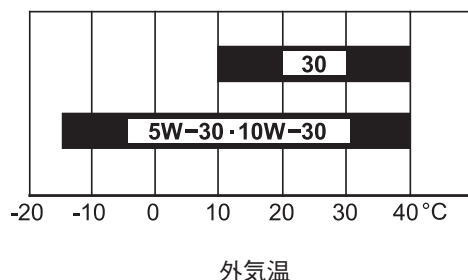
Honda純正ウルトラＵ汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

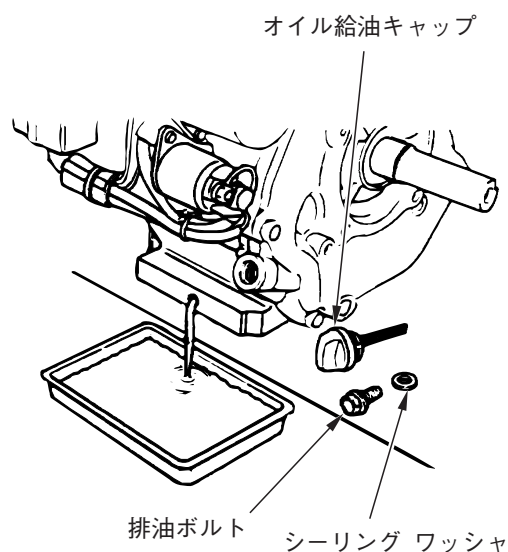
エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

粘度	外気温範囲 (℃)
30	10 〜 40
5W−30・10W−30	-15 〜 40

-20 -10 0 10 20 30 40℃

外気温

《オイル容量》 1.1 ℓ

《交換方法》

1．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2．排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3．注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

・交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

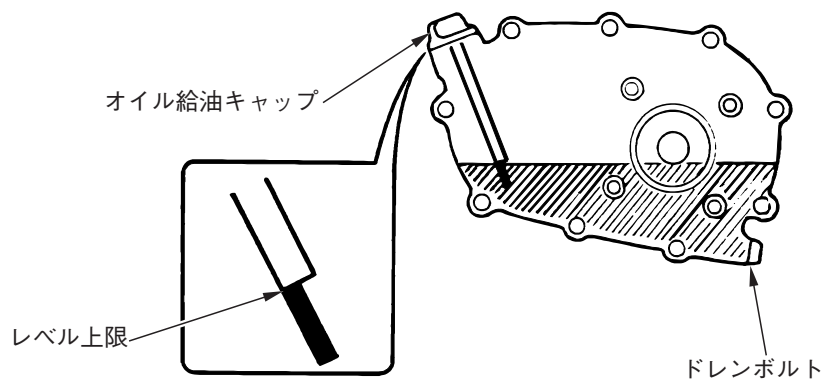
減速機オイルの交換

（1/2減速機自動遠心クラッチ付）

《交換時期》……初回：１か月または20時間運転時、以後：６か月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》（４サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラＵ汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《交換方法》
1．オイル給油キャップとドレンボルトを外しオイルを抜きます。
2．ドレンボルトを確実に締め付けます。
3．オイル給油口より、レベル上限までオイルを注入します。
4．オイル給油キャップを確実に締め付けます。

オイル容量：0.30 ℓ

⚠注意

・オイル量の点検は水平な場所で行ってください

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア クリーナが目づまりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告
- 洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- 清掃は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》……デュアル式：3か月毎または50時間運転毎
インターナル ベント キャブレータのデュアル式：6か月毎または100時間運転毎
サイクロン式：6か月毎または150時間運転毎
ほこりの多い場所で使用した場合は10時間毎または1日1回清掃してください。
《交換時期》……紙ろ過部……デュアル式：1年毎または300時間運転毎
サイクロン式：2年毎または600時間運転毎

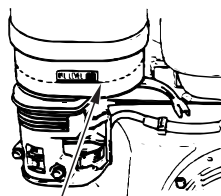
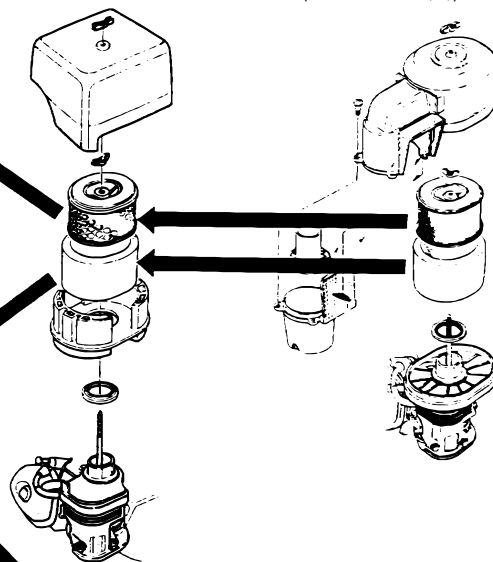
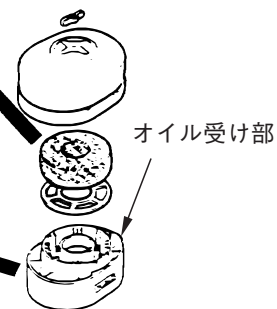
紙ろ過部清掃
- 内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。

乾式(ドライタイプ)

半乾式(セミドライタイプ)

ウレタンろ過部清掃
- 洗い油で洗い、よく絞ってから乾かします。乾燥後ろ過部(ウレタン)をエンジン オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。

湿式(ウエットタイプ)

オイル受け部清掃(湿式のみ)
- オイル受け部を洗い油で洗い、乾かしてから新しいエンジン オイルをオイル受けのレベルまで注入してください。

取扱いのポイント
- エア クリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
- オイルをつけすぎないように注意してください。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

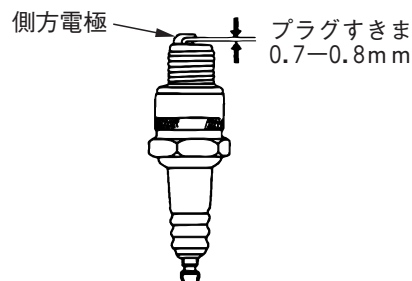
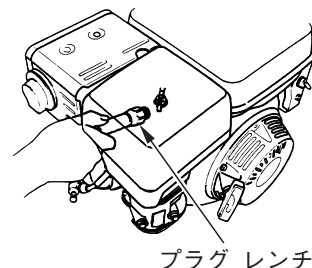
・**エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。**

《**点検・調整時期**》…… 6か月毎または100時間運転毎
《**交換時期**》…… 1年毎または300時間運転毎

《**清掃**》
1．点火プラグ キャップを外して、プラグ レンチで点火プラグを取外します。
2．汚れている場合はワイヤ ブラシ等で側方電極部を清掃してください。
※プラグ レンチ、ワイヤ ブラシは別売りです。

プラグ レンチ

《**点検・調整**》
・側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。
プラグすきま：0.7—0.8mm
取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けます。プラグ キャップを確実に取付けます。

《**指定プラグ**》
BPR6ES(NGK)　W20EPR-U(DENSO)

取扱いのポイント

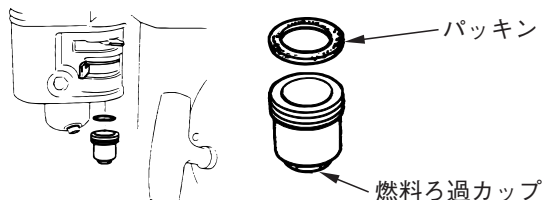
・**故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。**
点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・**換気の良い場所で行ってください。**
・**火気を近づけないでください。**
・**ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

《**清掃時期**》…… 6か月毎または100時間運転毎

1．燃料コック レバーを"止"にします。
2．燃料ろ過カップを取外します。
3．燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除きます。
4．清掃後、ガソリン漏れのないようパッキンと燃料ろ過カップを取付け燃料ろ過カップを確実に締付けてください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

エンジンがかからないとき

《セルフスタータ付》……………………バッテリあがり等でセルフ スタータが使用できない場合は、始動グリップを引いて始動してください。

・バッテリが充電しない場合…………バッテリを点検してください。

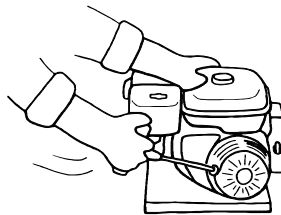
①ガソリンは十分に入っていますか?

●入っていない場合は補給してください。

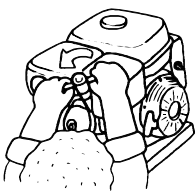
②エンジン オイル量が不足していませんか?
（オイル アラート付タイプのみ）
・エンジン オイルが不足しているとオイル アラートが働いてエンジン スイッチを“ON”にしても始動しません。

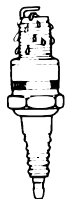
●少ない場合は口元までエンジン オイルを入れてください。

OK

③圧縮圧力は十分ですか?
・始動グリップをいきおいよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が洩れている可能性があります。

NO

OK

④点火プラグがぬれたり、汚れたりしてませんか?

●ぬれているときや汚れているときは清掃するか新しいプラグと交換してください。

⑤点火プラグのすきまは正しいですか?
・プラグすきまは0.7−0.8 mmです。

●すきまが正しくないときは調整してください。

⑥点火プラグを取付けて再度始動してください。

NO

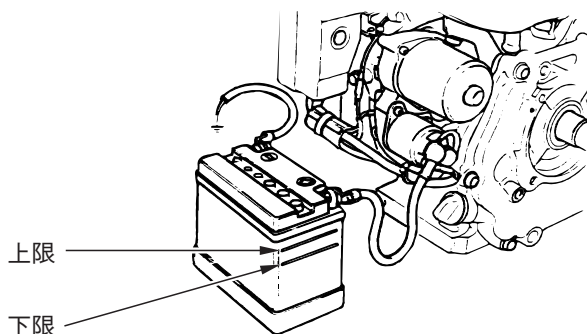
・お買いあげの販売店にお申しつけください。

バッテリの取付けと点検
（セルフスタータ付）

⚠警告

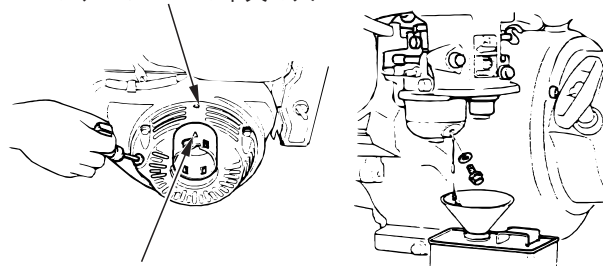
・バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
・バッテリを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
・バッテリに表示されている警告と説明文をよくお読みになり、使用してください。

《取付け》
1．バッテリは12V-18AH以上の仕様のものを使用してください。
2．バッテリとエンジンの間のコードは自動車専用ビニール被覆電線(低電圧用)で断面積が8㎟以上のもので圧着端子付きを使用してください。コード長さは1m以内にしてください。
3．バッテリ端子にグリース等を塗布し保護してください。さらに⊕端子にはカバーをしてください。
4．バッテリの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。もし、リセット スイッチのボタンが上がっている時は⊕⊖の配線接続を確認してからボタンを押して復帰させてください。

《点検》
●バッテリの液面が上限と下限の間にあれば正常です。バッテリ液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
●端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。端子に白い粉が付いている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。
●長期保管後使用するときや、バッテリがあがり気味のときは補充電を行ってください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

⚠警告

• ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
• ガソリンを抜くときは
  ・エンジンを停止してください。
  ・火気を近づけないでください。
  ・換気の良い場所で行ってください。
  ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

●始動グリップを引き、重くなったところでカバーの中央の穴と始動プーリ△印を合わせます。
●燃料タンク、キャブレータのガソリンを抜きます。
●エンジン オイルを交換します。
●ビニール等でカバーをします。
●湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

・次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。
（6か月に1回新しいオイルと交換）

主要諸元

寸法質量はSタイプの数値です。

名　　　称	GX240	GX270	GX340	GX390
型　　　式	GC04	GCAB	GC05	GCAA
全　　　長	355 mm		380 mm	
全　　　幅	430 mm		450 mm	
全　　　高	410 mm		443 mm	
乾燥質量（重量）	25.0 kg		31.5 kg	
形　　　式	空冷4サイクル傾斜形ガソリン(OHV)			
総　排　気　量	242 cm³	270 cm³	337 cm³	389 cm³
連続定格出力／回転速度	4.4kW(6.0PS)/ 3,600rpm	5.1kW(6.9PS)/ 3,600rpm	5.8kW(7.9PS)/ 3,600rpm	6.6kW(9.0PS)/ 3,600rpm
最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	5.3kW(7.2PS)/ 3,600rpm	6.0kW(8.2PS)/ 3,600rpm	7.1kW(9.7PS)/ 3,600rpm	8.2kW(11.1PS)/ 3,600rpm
最大トルク／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	15.3N·m(1.56kgf·m)/ 2,500rpm	17.7N·m(1.80kgf·m)/ 2,500rpm	22.1N·m(2.25kgf·m)/ 2,500rpm	25.1N·m(2.56kgf·m)/ 2,500rpm
使　用　燃　料	無鉛レギュラーガソリン			
燃料タンク容量	5.3 ℓ		6.1 ℓ	
エンジンオイル量	1.1 ℓ			
点　火　方　式	トランジスタ式マグネト点火		トランジスタ式マグネト点火	
始　動　方　式	リコイルスタータ / リコイルスタータ セルフスタータ	リコイルスタータ / リコイルスタータ セルフスタータ	リコイルスタータ / リコイルスタータ セルフスタータ	リコイルスタータ / リコイルスタータ セルフスタータ

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（最大出力）、2,500rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は予告なく変更することがあります。

配線図

コンビネーション スイッチ接続表

	IG	E	BAT	ST
COLOR	黒／赤	黒	白	黒／白
OFF	○	○		
ON				
START			○	○

GX240（セルフスタータ付、オイルアラート付）

※配線図はタイプにより異なります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

GX240K1
GX340K1
GX390K1
GX270

30ZH9606
00X30-ZH9-6060

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。